

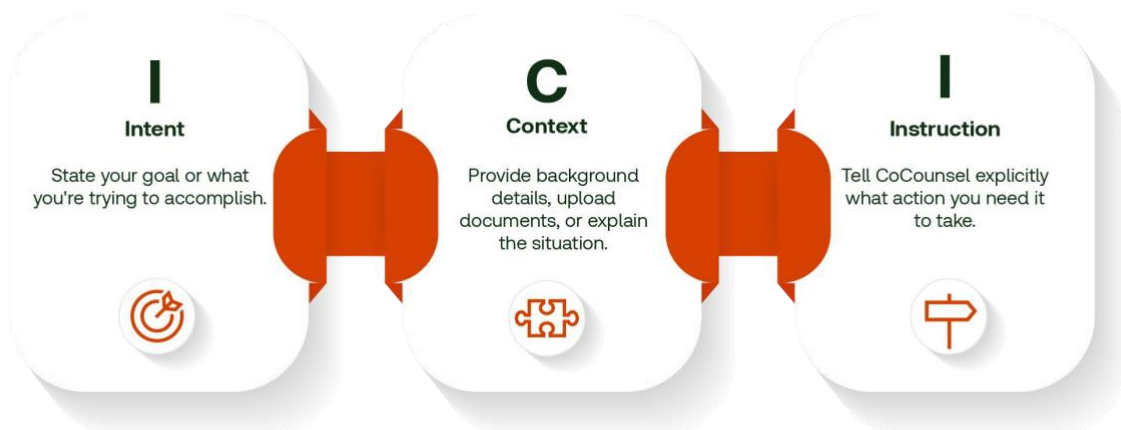


CoCounsel における ICI プロンプティングの使い方

CoCounsel は、法的業務を正確かつ自信を持って完了できるよう専門的なスキルを持ち合わせています。どのスキルも、明確な意図、関連するコンテキスト、明確な指示を提供することで最も効果を発揮します。意図・コンテキスト・指示(ICI)フレームワークは、試行錯誤から脱却し、信頼できる結果を生み出すための、目的に即したワークフローの作成を可能にします。本ガイドでは、ICI の定義、プロンプトテンプレート、実例、そしてすべてのコア CoCounsel スキルに対するベストプラクティスを提供します。

ICI プロンプトとは

意図・コンテキスト・指示(ICI)フレームワークは、曖昧さを減らし、精度を高めることで、明確で効果的なプロンプトの作成を支援します。



意図 (Intent): あなたの行動の目的や動機を CoCounsel に伝えてください。

例: 「私は専門家証人の信頼性に疑義を呈しようとしています。」

コンテキスト (Context): 目標、動機、意図に実質的な影響を与えるコンテキストを CoCounsel に伝えてください。

例: 「この文書には、私が信用性を争う予定の専門家の過去の証言がすべて収録されています。本件は医療過誤訴訟です。」

指示 (Instruction): あなたが述べた文脈で意図を達成するために、Cocounsel に望む行動を明確に伝えてください。

例: 「この文書には、専門家がこれまでに行った証言の中に、明示的または黙示的な矛盾や不一致は含まれていますか。」

各 CoCounsel スキルにおける ICI の適応

ICI フレームワークは CoCounsel における効果的なプロンプティングの基盤でありつつも、各スキルは特定のニーズを満たすよう、フレームワークは適応しています。

すべてのスキルが従来の意図 + コンテキスト + 指示の順序を使うわけではありません。各スキルに推奨される構成を使用し、結果を上げましょう。



スキルによるプロンプト

特定のプロンプト方法にて各スキルは最も効果的に機能します。

[データベース検索](#)

意図 + コンテキスト + 指示

[要約](#)

長さ + 焦点 + コンテキスト

[文書レビュー](#)

識別 + 記述

[文書の比較](#)

意図 + コンテキスト + 指示

[契約ポリシー遵守](#)

条項 + 要件 + コンテキスト

[ドラフト](#)

種別 + トーン + コンテキスト + 意図

[尋問準備](#)

意図 + コンテキスト + 指示

[タイムライン](#)

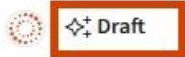
長さ + 焦点 + コンテキスト

[チャット\(ブレインストーム\)](#)

意図 + コンテキスト + 指示

スキル用プロンプト作成時のベストプラクティス

プロンプト送信後、CoCounsel が想定されるスキルを使用し、応答を生成していることを確認ください。CoCounsel は回答の左上にスキル名を表示します。スキルが指定されていない場合、CoCounsel の専門的な機能を発動させるため、プロンプトにより多くの詳細を含める必要があるかもしれません。



Download

Outline for Reply in Support of Motion for Summary Judgment

Introduction

- Restate that the motion for summary judgment seeks judgment as a matter of law because there is no genuine dispute of material fact and movant is entitled to judgment under [Rule/Statute citation to be determined].
- Highlight the motion's core arguments: (a) the governing legal standard requires [element(s) to be determined] that the nonmovant cannot establish; (b) undisputed record evidence establishes [material facts to be determined]; and (c) any purported disputes are immaterial or unsupported by admissible evidence.

Ask CoCounsel about a legal task or topic...

Upload Library

Send

* データベース検索

目的: 膨大なファイルデータベースの中から関連文書を見つけること。

ICI: 意図 + コンテキスト + 指示

テンプレート:

本データベース（[コンテキスト用の説明]）を検索し、[特定の意図を記述] のため [特定の主題を記述]。

例:

意図: 証拠を見つけること。

コンテキスト: 本訴訟記録のデータベース。

指示: 和解および弁済の積極的抗弁の立証。

フルプロンプト: 「訴訟記録のデータベースを検索し、和解および弁済の積極的抗弁を支持する証拠を特定してください。」

ベストプラクティス:

- 誰が、何を、いつ、どこで、なぜの質問を明確にしましょう。
- 傾向、感情、暗黙の意味、または具体的な詳細に焦点を当てましょう。
- プロンプトは説明的かつ概念的であるべきです。
- 複数のリクエストを同時に実行できます。

* 要約

目的: 長く複雑な文書を、要点に絞って要約すること。

ICI: 長さ + 焦点 + コンテキスト

テンプレート:

この文書を [{ページごと}または{簡潔に}] まとめてください。特に [{副題}] に焦点を当てています。[段落/箇条書き/表] 形式で下書きしてください。

例:

長さ: 要点のみ。

焦点: 自動車事故に関する証言。

コンテキスト: 本文書。

フルプロンプト: 「この文書について、自動車事故に関する証言を中心に、簡潔に要約してください。段落形式で作成してください。」

ベストプラクティス:

- 簡潔、網羅的、ページご等の正確性が必要な場合は長さを指定してください。
- フォーカスを使い、要約を特定のトピックやセクションに絞り込みましょう。
- 段落、箇条書き、表など、さまざまな形式をリクエストできます。
- サマリーはスキル積み重ねワークフロー作成における最良の出発点です。

* 文書レビュー

目的: 文書につき、複雑な質問をし、引用付きの実質的な分析を得ること。

ICI: テンプレートの識別 + 説明

テンプレート:

これらの文書を読み、次の質問に答えてください: [特定し説明...]

または

これらの文書を読み、以下の列で表を作成してください: 1) [列の内容を明確に定義し、必要に応じてコンテキストを提供]; 2) [第 2 列の定義]; 3) [第 3 列の定義]。

キーワードの識別例:

特定: 証言録取における証言。

説明: 2022 年 10 月に発生した自動車事故に関する証言。

フルプロンプト: 「これらの文書を読み、以下の質問に回答してください。1) 2022 年 10 月に発生した自動車事故に関する証言録取における証言を特定し、その内容を説明してください。2) 証言録取中に証言者が防御的な態度を示した場面があれば、それを特定し、説明してください。」

構造された出力を作成するための例:

フルプロンプト:「これらの文書を読み、以下の列を含む表を作成してください。1) メールの日付
2) 送信者 3) 受信者 4) メールの主なトピック」

ベストプラクティス:

- 最良の結果を得るには「構造の特定と説明」を活用してください。
- 質問は具体的かつコンテキストに沿うものにしてください。
- 複数のドキュメントに複数のプロンプトを同時に入力できます。
- 本スキルは高度な推論を必要とするので、詳細なコンテキストを提供してください。
- **文書レビュー**は契約書や法的文書から特定の情報を抽出するのに優れています。

*** 文書の比較**

目的: 2つ以上の文書を具体的に比較すること。

ICI: 意図 + コンテキスト + 指示

テンプレート:

これらの文書を [副題]に関する意図と特定の焦点を説明する] と比較してください。

例:

意図: 違いの識別。

コンテキスト: 当該自動車事故に関する証人の証言において。

指示: これらの文書を比較してください。

フルプロンプト:「これらの文書を比較し、自動車事故に関する各証人の証言の相違点を特定してください。」

ベストプラクティス:

- CoCounsel が比較する要素を自ら決定しないよう、具体的なプロンプトを提示してください。
- このスキルは、1対1の比較における違いや矛盾の発見に活用できます。
- 相違点の列挙にとどまらず、更なる分析も依頼可能です。
- 複数文書の比較は可能だが、多対一の形式での比較は不可。

*** ドラフト**

目的: カスタマイズされた手紙、メール、メモ、アウトライン、その他の短い文書の作成。

ICI: 種別 + トーン + コンテキスト + 意図

テンプレート:

[メール、メモ、概要書、アウトライン、表など、CoCounsel に作成してほしいものを記載] を [文書や説明文等、コンテキストとなる情報を記載] に基づいてドラフトすること。トーンは [カジュアル、

フォーマル、積極的、シンプルなど、トーンの指定] であること。[この文章で達成したい目的など、追加のコンテキストを記載]

例:

タイプ: メモ。

コンテキスト: 上記の事件ファイルの要約に基づくこと。

トーン: プロフェッショナルで明確、かつ分かりやすいこと。

意図: 裁判所の判断理由についてのクライアントへの報告、彼女の状況への影響の説明、および推奨される次のステップの概説。

フルプロンプト: 「上記の案件ファイルの要約に基づき、メモを作成してください。トーンはプロフェッショナルで明確、かつ読み手にとって分かりやすいものにしてください。裁判所の判断理由についてクライアントに報告し、それがクライアントの状況にどのような影響を及ぼすかを説明したうえで、推奨される次の対応を提示してください。」

高度なパラメータは以下の通りです:

- **トーン:** プロフェッショナル、わかりやすい、フォーマル、会話調、説得力のある、積極的、シンプルなどの表現の指定が可能。
- **長さ:** 1~2 ページ、簡潔、包括的、または凝縮した形式のリクエストが可能。
- **構成:** 段落形式、箇条書き、番号付きリスト、表、アウトライン形式のリクエストが可能。
- **対象者:** 一般人、法律の専門家、依頼人、裁判所のいずれかを指定が可能。
- **行動喚起:** 具体的な次のステップや連絡先情報の記載も可能。

ベストプラクティス:

- 要約後にドラフトを実行し、コンテキストの提供のため、スキルレビューを行う。
- 「上記の要約に基づいて」または「上記の作業および調査に基づいて」と述べることで、以前の作業を参照する。
- このスキルを用いて、テンプレートやアウトラインを作成できます。
- 非常に詳細なフォーマットや構造要件を指定できます。
- ドラフトは、書簡、社内メモ、クライアントとのやり取りに最適です。

*** 尋問準備**

目的: 証言録取や調査プロジェクトに関連するトピックや質問を生成すること。

ICI: 意図 + コンテキスト + 指示

テンプレート:

私は [証言録取する人物の説明] の証言録取の準備をしています。私はこの訴訟にて [依頼人の役割] を代理しています。この証言録取に関連する訴訟の重要な側面は [訴訟の関連事項の説明] です。あなたの証言録取準備スキルを活かし、この証言録取の準備に使用できるトピックと質問を草稿してください。[特に{興味のあるサブトピックや項目をリストアップ}]。

例:

意図: 私は本件の原告側損害賠償専門家である山田太郎先生の証言録取の準備をしています。

コンテキスト: 私は、原告が店の生果売り場で滑って転倒し、負傷を負ったとされる訴訟で被告の食料品店を代理しています。

指示: 尋問準備スキルを活用し、山田先生が個人傷害訴訟で証言した履歴、彼の結論に至った経緯、そして潜在的な偏見に特に焦点を当て、この証言録取の準備のために使用できるトピックと質問を作成してください。

フルプロンプト: 「私は、原告側の損害算定に関する専門家証人である山田太郎医師の証言録取の準備をしています。本件は、原告が被告である食料品店の青果売場の通路で滑って転倒し、負傷したと主張している訴訟であり、私は被告食料品店を代理しています。尋問準備スキルを用いて、この証言録取の準備に使える論点および質問を作成してください。特に、山田医師が人身傷害訴訟で証言してきた経歴、どのように結論に至ったのか、および潜在的な偏りの有無に焦点を当ててください。」

ベストプラクティス:

- プロンプト用に文書を直接アップロード可能。
- まず要約を行い、それを参照するとより良い結果が得られる場合があります。
- 質問やカテゴリーの具体的な数をリクエストできます。
- ターゲットとなる質問領域について明確に指示することで、よりの確な質問が可能です。

*** タイムライン**

目的: 文書内の出来事の時系列で自動的に整理します。

ICI: 長さ + 焦点 + コンテキスト

テンプレート:

以下の文書を基に [関心のあるトピックまたは期間を指定] に焦点を当てたタイムラインを作成してください。

例:

長さ: 指定なし (CoCounsel が判断)

焦点: 2018 年に起こった出来事

コンテキスト: 以下の文書

フルプロンプト: 「これらの文書に基づき、2018 年に発生した出来事を中心とした時系列表を作成してください。」

ベストプラクティス:

- 一般的または、具体的なスケジュールを依頼可能です。
- 簡潔なもの、または包括的なものなど、精度が重要な場合は長さを指定してください。
- 特定のトピックや期間に焦点を当てることが可能です。

- 「このタイムラインを叙述形式に再構成してください」と指定することで、叙述形式に変更可能です。
- デフォルトの出力は表形式です。

* チャット (ブレインストーミング)

目的: 特定のスキルを呼び出すことなく、アイデアのブレインストーミング、例の作成、または簡単な回答の取得にチャットを使用します。

ICI: 意図 + コンテキスト + 指示

テンプレート:

[目標、またはブレインストーミングしたい内容を記載] について、[関連するコンテキストを記載] を踏まえてブレインストーミングしてください。[リスト、例、アイデアなど、希望する出力形式を指定]。チャット内に直接作成してください。

ブレインストーミングにおけるチャットの仕組み:

チャットインターフェースでは、特定のスキルに頼らずに CoCounsel と会話形式でやり取りできます。これはアイデアの生成、選択肢の検討、またはトピックに関する簡単な意見を得る場合に適しています。

CoCounsel が特定のスキルにルーティングされるのを防ぐには、「**チャット内のみ**」または「**チャット内に直接**」など、明確な表現をプロンプトに含める必要があります。

ブレインストーミングの例:

意図: 質問する可能性のある項目をブレインストーミングしたい。

コンテキスト: 実施中の内部監査について。

指示: 監査時にすべき関連質問を 10 個作成してください。

フルプロンプト: 「実地中の内部監査のために、考えられる質問方針をブレインストーミングしてください。面談時に尋ねるべき関連性の高い質問を 10 個作成してください。回答はこのチャットに直接記載してください。」

チャットのみで返信を得る場合:

特定のスキルに頼ることなく、ブレインストーミングの返答を得るために、メッセージの前に「**チャット内のみ**」と付け加えてください。

ベストプラクティス:

- 「**チャット内に直接**」や「**チャットで直接ドラフトしてください**」など明確な表現を含めることで、特定のスキルに割り当てられないようにしましょう。
- チャットは、深い文書分析を必要としないアイデアの生成、選択肢の検討、または簡単な回答の取得に適しています。
- 達成したい内容を説明することで、他のスキルで使用するプロンプトのブレインストーミングをチャットに依頼できます (メタプロンプティング)。

- 特定のスキルやワークフローを使用する前に、アプローチを検討するためにチャットを活用できます。
- 他のスキルの結果を再フォーマットする場合は、「これらの結果を [指定する形式] に再フォーマットしてください。チャット内に直接作成してください」と依頼できます。
- チャットは、メタプロンプティングにも有用です。つまり、CoCounsel のスキルで使用できるプロンプトの作成を依頼できます。例: 「私は [文書の内容を説明] を確認しています。[意図を説明] するために使用できる文脈に即した質問を [数を挿入] 個提案してください。チャット内に直接作成してください。」

詳細はこちら

追加のトレーニング資料については、[CoCounsel のヘルプサイトをご覧ください](#)。